

令和4年度第1回月形町地域拠点施設整備等審議会の開催結果

開催日時 令和4年6月2日(木)午後5時30分～午後6時45分
開催場所 月形町役場大会議室
出席委員 出席委員14名、欠席委員2名(坂田委員、伊藤委員)
傍聴者 1名
月形町 上坂町長、竹内参事、新道係長、樋浦主事

委嘱状交付 町長より石尾委員へ委嘱状の交付(坂田委員欠席)

町長挨拶

皆さんには、お疲れのところお集まりいただき本当に感謝申し上げたいと思います。また、石尾委員と坂田委員を新たに迎え入れて拠点施設について、改めてご検討をよろしくお願いをしたいと思います。本当に皆さんにはご苦勞をおかけしていると思っております。月形の未来をしっかりと考えてそれぞれご意見をお出しいただいていること本当に嬉しく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします

(別途公務のため、町長退席)

1 開 会 竹内参事

2 挨 拶

(福井会長) 期間が空きましたが、皆さんお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。新年度に入って1回目ということになります。また、3月29日に道の駅等に関しては答申書を町の方に出させてもらっています。皆さん、色々な面でご協議ご協力いただきましてありがとうございます。本日もこれから1年、その地域拠点施設に関して説明あると思いますが、小学校移転が大前提の話になりますが、協議をよろしくお願いいたします。

3 議 件

(1) 町民保養センター等改修基本計画(案)(竹内参事から説明)

(福井会長) 説明が終わりましたが、年内かけて設計ということで今の段階では設計の前の段階の機能や今後このようなことをするという説明しかできないのですが、この段階で何かご意見をください。

(梅木委員) この基本計画案はコンサル業者と一緒に作成していると思うんですが、コンサル業者の名前を教えてください。

(竹内参事) 今回この基本計画の策定にあたりましては建築系のコンサルに業務委託をし

たところであります。この業務につきましては札幌市の日本都市設計と委託契約をしております。日本都市設計に加えて、一部経営・運営ですとか収支の試算等につきましては、日本都市設計さんの方から専門の事業所の方にサポートいただいていると言う事は聞いております。さらに現在、振興公社に国の制度で地域活性化企業人と言いまして、民間企業から専門家を派遣していただける費用を国が負担してくれる制度で、本町も今年度その制度を活用し、オズコンサルタントという企業から2名派遣いただいて振興公社の経営運営そしてホテル温泉の経営改善のためにご協力いただいています。その企業との連携を踏まえ、専門家のノウハウを入れた中で今回の計画を策定しています。

(福井会長) 計画も事前配布されており、多少読んでいただけていると思います。今の段階では、道の駅に関しても協議できることは協議してきており、言っておかなければならない事は言えたんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

(廣野委員) 6月に設計業務を発注し、12月に実施設計まで完全に設計終わるっていう考えでよろしいでしょうか。基本設計があって実施設計に入るとは思いますけど、このメンバーで集まって討議するには基本設計が終わらないとできないと思います。基本設計の段階でまた委員の方々に見てもらっても議論は難しい。その辺どうお考えでしょうか。

(竹内参事) 今回設計に関しては基本設計と実施設計を抱き合わせでやる予定でおります。前半は基本設計になると思いますので、可能な限り早い段階でイメージの共有化を図っていきたくて思っております。基本設計をしっかりと固めていかないと長く時間がかかってしまいますので、まだ設計業者が決まってない段階ですが、こちらの考えとしましては基本設計の部分なるべく早い段階でみなさんと共有を図っていき、そういった資料を提供できないかなというふうに考えております。そこで基本設計を固めて実施設計に移行して年度内に業務を完了させると考えでおります。12月までに基本設計部分ということでこれを最低限めどにして行きたいなと思っております。固めた上で、実施設計を終え、工事の着手に向かっていくという考えです。基本設計部分の中で委員の皆様にもご意見を伺う機会を設けていきたくて思っております。先ほどもお話させてもらいましたが、今回複雑な改修工事になりますので、制限がどうしても出てきます。そういった中で我々も設計をしっかりやっていきたくて思いますが、可能な限り良いサービスができる仕様、改修を考えております。みなさんの力とアイデアもいただければと思います。

(梅木委員) 資料が多いため細かく読める訳じゃないですが、ホテルのところで、ホテルの24室残して部屋数を増やすっていうところで、あんまり収益改善にならないのではと思っていて、メインターゲットを観光客、その次にビジネス客がサブみたいなことで書いてあったんですが、逆なんじゃないかなと思っています。果た

してそのホテルに観光客としてホテルに泊まりますっていう人がそんなにいるのかっていうと多分結構厳しいんじゃないかなと思っています。皆さんが例えば町外に住んでいたとして月形町のホテルに泊まりますかっていったらあんまり泊まらないんじゃないかと思うんです。そうではなくて、ビジネス関係で通りがかりにここに宿泊が必要となる人のほうが多いのではないかと考えると20室ではなくて、例えばカプセルホテルのようにして、安価で宿泊者数を増やしていく、全てをカプセルホテルではなくても、そういった仕様の宿泊タイプを増やせば宿泊率が高まるんじゃないかなと思いました。

(竹内参事) 本計画書における標記の仕方、宿泊に関する考え方について、専門のホテル経営コンサルタントと話をしました。ビジネスメインと言いきってしまうとホテルとしての収益を目指す上では、あまり良い表現、考え方では無いということでした。観光といってもハイグレードの観光ではなく、月形の特性を考えた場合一泊、二泊の短期旅行者を想定し、そういった客層へのサービスに対応できる客室仕様にし、さらにビジネス層を捉えていくという考えです。観光メインのような表現となっていますが、土日の部分を旅行者を中心とした受け入れていくという意味でターゲットとしては観光客、平日の宿泊者をビジネスユーザーメインとするというふうに整理しています。それぞれのターゲットに対してどのような客室を販売していくかということも考慮した。ベースは観光という表現となっていますが、短期旅行者をメインとしながら、平日の客室を販売していくところでビジネスユーザーにも対応できる客室仕様や営業展開して行くということでこのような記述になっています。

(梅木委員) これについて、可もなく不可もなくの回答を出してきていると思うんです。観光もビジネスどちらももらいましょうというふうに今までやってきて、一番失敗するパターンだと思います。全部、受け入れましょうというのが全部取れないという形になると思います。今の温泉ホテルの状況としてビジネスで1人でお客さんがいて、その人たちが一室を使ってしまっていると言うことはそれだけ収益が出ない。それで収益が出ない上に朝食が豪華でお客さんとマッチしてなく、どんどん費用がかかってたっていう経緯があると思うので、やっぱりその辺はしっかり捉えないとまた同じような失敗を繰り返してしまうんじゃないかなと感じました。

(竹内参事) ありがとうございます。先ほど説明した活性化企業人は、経験がある2名が来ております。今コロナの状況もあるので、3年間の中で、ハードをどう整備するかにもよって販売戦略等変わってくると思うので、企業人のアイデアと今後どういう客室等を販売をするかという細かいところは、今後も精査していきたいと思っています。客室も今回改修するのが単年度で厳しい状況です。そういった面では逆に経営状況を見ながら販売戦略を練っていき、課題を解消してい

くことも、一方ではありえるのかなと思ってます。部屋についても大きい部屋があった方がいいんじゃないとか、逆にもっと細かくしてもいいんじゃないかですとか、そういった話もこれまで出てますので、今のご意見も踏まえながら活性化企業人とともに、今後どのように改修していくかを考えていきたいと思えます。

(松山委員) 全て洋室にするということで書いてありましたので、どんな洋室になっていくのかとは思っていました。普通、シングルやツインなど色々ありますが、様々な環境を考えたときにビジネスユーザーや合宿で使うなど書いてありましたので、シングル、ツインっていう細かい部屋もあって、例えば和洋室みたいのもあって良いのでは。そういうのがあると合宿とかでも利用できたりするので色々なアイデアがあったらいいかなと思いました。

(竹内参事) ありがとうございます。ある程度選択肢を設けるっていうことも必要であると思いますので、そこも基本計画の全体を見据えた中でも可能性あるものとしてまとめてきたので今のようなニーズもさらに設計の中で整理をしていく必要があると思っております。先ほどの合宿の受け入れも行っていくとした場合、ベッドが無い方が良いという考えがある一方、年配の方でもベッドの方が楽だという意見もあったりするので、その辺はもう少し精査してお客様のニーズですか周辺でどういった利用形態になっているのかというのを考慮したいと思えます。有名温泉地とは状況が違いますので、そこは繰り返しになりますが、企業人とも相談し、整理しながら進めていきたいと考えています。

(福井会長) 直近 2 年の改修という話で金銭的なこともあるとは思いますが、大体いつグランドオープンするのか。トイレなどの道の駅登録基準に対応する改修をした段階で道の駅も開業するのか、その辺りを委員のみなさんに説明をお願いします。

(竹内参事) これも工事工程がはっきり言えないですが、基本計画書案の後半の方になりますが、今回の改修工事は複雑なので、長期間の工事になります。目標としましては令和 6 年 7 月に温泉改修そして客室一部改修、本館の取り壊しも含めてそこを目途に改修を終えた段階で道の駅の開業というところを目指して行きたいなと考えております。客室一部改修にとどまりますので若干はな工場の改修が残りますが、こちらにつきましては数年以内の間に第 2 段階として、残りの客室等の改修に着手できたらと思っております。これについては道の駅の機能を追加した場合はどれだけ経済効果が出てくるかということも考えなければなりませんし、単年で投資できる事業費も考える必要があります。全体で 10 億円を超える事業費になり、今後資材高騰や設計していく中でまた大きく変わってくる可能性もあります。こういった中でやはり複数年事業にならざるを得ないだろうというのが今の考えでありまして、その中で可能な限り早く収益を上げて行

ける施設として、改修を行っていく必要があります。設備改修など、改修自体が目に見えない部分が多くなりますが、そういった部分をしっかりと整備していかないと、建物自体の機能が発揮できないと考えております。そういった中で温泉等リニューアルオープン、同時に道の駅の開業というものを目指して行きたいと考えております。道や開発局との調整もございまして、タイミングを逃さないように合わせて手続きも進めていきたいと考えています。

(福井会長) いつになるのかという感じだったので、聞かせていただきました。

(2) 地域拠点施設の整備について (竹内参事から説明)

(福井会長) ご意見といってもしばらく後の話になるので、そこはどうかと思ってるんですけど、ご意見お願いします。

(加藤委員) 町内に散らばっている様々な施設類の一部を持ってこようというイメージだと思いますが、具体的に何を持ってくる予定ですか。記載のある創作活動が行えるホールや会議室であれば多目的研修センターをやめて、図書館でいえば、その旧病院の後をどうするのかなってということとグラウンドの活用ということで、イベントスペースを整備するということが、道の駅を温泉に持って行くときも思ってたんですけど、夏祭りをどこでやるつもりなんですか。

(竹内参事) 夏祭りは極端に言うところでもできるかと思いますが、今までは花火大会がメインとしながら、実行委員会としては皆楽公園としていました。以前は道道で開催したり、いくつか場所を変更しながら、一番集客効果のある皆楽公園でいこうとなったと思います。例えば駐車場は大きく変わりませんので、今までどおり皆楽公園でも可能だと思いますし、その辺は今後、新たな場所で開催することも考えられます。今後イベントのあり方も変わってくる可能性もあるのでそういったところはもう少し詰めていく必要があるのかなというように思っております。拠点施設をイベントエリアにするというのも考えとして例示させて頂いてはいますが、そういう意味ではこの市街地にそういったフリースペースが無いので、グラウンドを活用するというのも考えられると思います。グラウンドも広く感じますが、除雪のことを考えると思ったようなスペースは作れないのではないかと考えています。そういう意味でイベント系を地域拠点施設のこの大きい一定の区画を活用するというのは当然浮上してくるのではないかなと思っております。ただ、現段階では必ずここでやりますとかこっちに機能を持ってきますというのを決めるのは難しいかなという状況です。あと公共施設の集約化というところで図書館についてはかなり古くなってるという課題があり、コミュニティ活動を行う場所というのが決まった施設がない状況です。過去には福祉センターがそうだったかと思いますが、コミュニティ活動ができる場を整備していきたいということ、また公共施設の全体的な集約を考えたときには、一つの考え

としてとしては多目的研修センターの見直しも必要ではないかと思っております。公共施設の全体の管理計画の中で関係部署との整理が必要ですが、町の保有する施設で課題が出てくるのではないかと考えています。ただ具体的に施設の存廃を今の段階では判別出来ませんが、可能性は当然出てくるし考えたい必要があると思っています。

(加藤委員) 建物の耐震の基準ですが、小学校が建った前後ぐらいで基準が変わったように思っていますが、どうなっていますか。

(竹内参事) 小学校校舎については現在の耐震基準をクリアしている建物とす。新たな基準ができなければ現行制度ではクリアしているという状況です。

(梅木委員) 5年後という先の話なのでそうすると町の状況とか体制もかなり変わると思うので今この話をしてもあまり意味がないかなと思います。基本的に今の委員が出した意見を基本ベースとして考えて、小学校が中学校のところに移転した時にバタバタしないようにしておいてほしいというように思います。移動してからどうしますっていうのは、3年ぐらい前から事前に動くというのと事務局の担当も結構変わっている可能性が高いと思うので、その辺の引き継ぎをしていかないともた協議が始めからになってしまうので、そこはしっかりお願いしたいです。

(鳥潟委員) 今の建物はあと何年持つっていうのが気になっています。あともう1個、箱が大きすぎるからどこまで改修してどこまで利用するのか、その辺もどうするのかっていうのは気になっています。

(竹内参事) 建物も老朽度調査というのは当然必要になってくると思います。はっきり答えられない部分がありますが、安全性はしっかりと調査した中で改修する必要があると思っています。既存施設を長寿命化して活用していくというのが国も含めての流れとなっています。最低限そういった国が進める今後の公共施設のあり方というものに沿った中で整備していく必要があると思っています。そういった意味ではしっかりと安全に使える体制を整えるっていうのが大前提であると思っています。これに関しては100%コミュニティ施設として使うという可能性は当然ありますので、防災対策面から災害関連の物品を備蓄するスペースの活用もありうると思っています。鉄筋コンクリートの建物は町内にそれほど奥はないので、防災、災害対策という面での利用も充分可能性があると思います。民間企業が施設を活用することも可能性があると思います。今後の構想、基本計画を進めていく際に今のような議論もしっかりする必要があるのでと考えています。

(高島委員) これが実際的には何年から供用開始の予定ですか。

(竹内参事) 既存施設を活用しているうちは、改修等は行えないと思っています。改修も実際に建物を詳細に調査しなければ状況が把握できない場合があります。例えば調査設計などは、学校に児童生徒が授業を行っている期間に実施できるかどうか

かということも考えなければなりません。スケジュールでは、小学校の完全移転に校舎改修に向けて着手となっていますが、場合によっては1年前倒し出来る可能性はあると思います。町全体の公共施設の集約化も含めて利便性を向上する上では、可能な限り早く進めていきたいと思っています。これは財政的な部分は別の議論とすることを前提した場合、1年でも半年でも早く拠点施設の整備に着手して供用開始するというのを目指して行きたいと考えております

(高島委員) ありがとうございます。諮問があつて答申を出して、このことについて話し始めたときから、大分、状況は変わっていると思うんです。公共交通や札沼線バスのバスターミナルをとという話だったものが段々とその重要性も薄れてきて、それが令和10年、11年ってなったときに果たして最初の話が何だったのかということもありえると思います。それを今の段階でもう少し広い目で見、長い目で見ると見れないのかなと思うので、どんどん見直しというか、状況に合わせて考えていただけるといいなと思います。今の段階で考えたものが、小学校移転後には全然必要のない施設ということもありえると思うので、その辺も考慮いただけたらなと思った次第です。

(松山委員) 拠点施設として考えていくということが基本にあるので、外部から、例えばこの小学校跡地を何かに活用したいという申し出や、町から利活用に関して働きかけることはしないで、拠点施設として整備していくという方針で良いでしょうか。

(竹内参事) 現時点では民間やコミュニティ機能を見捨てた施設とすることは全く考えてはいません。仮に外部から利活用の提案があつた場合、町としては利活用の条件を示して、その条件のもとに協議をしなければいけませんし、今の段階では全く別なものに転用してまで建物を活用するっていうことは考えておりませんので、基本的にコミュニティ機能を有した拠点施設として運用していくことが大前提になります。ただ当初も商業スペースであつたり、そういった機能という説明をさせていただいておりますが、コミュニティ施設、機能を活用し、生活の利便性が向上するような施設の運営であれば、コミュニティ機能以外の機能が備わることもあり得ると思います。地域住民の利用を見捨てた施設というのは現時点では考えておりませんので、そういった点ではは前回答申いただいた地域拠点施設としての機能をしっかり備えたものを町として保有するということを大前提として考えていきたいと思っています。

(福井会長) 皆さんご意見出たかと思えます。簡単に言うと今の段階で拠点施設に関しては協議を深掘りしていくことが難しいのではないかと考えています。現状を考えると、審議会として具体的な整備内容を協議していくことはしないということではないでしょうか。

(竹内参事) 諮問をさせていただいておりますが、例えば継続的な審議ですとか具体化して

から改めて前回の答申をベースに議論を深めていくことが必要、というようなまとめ必要があると事務局では考えていました。この拠点施設の整備に関しては、審議を打ち切りではなく、基本的な部分を絶やさないと意味で「引き続き議論を深めてください」というようなまとめをするという方法もありうるのではないかと考えています。「継続審議」ということも答えのひとつではないかと考えています。

(福井会長) 今、竹内参事から説明があったとおり継続審議をしていく必要があるということとします。

協議が終わりましたが、その他、皆さんから何もなければ終わりたいと思います。

(意見、質疑なし)

長時間にわたって、ご協議いただきましてありがとうございます。先ほど廣野委員からお話あったように、温泉等の改修に関しては基本設計も実施設計これからという状態で協議にもなかなかかなりづらい面もありましたが、今後、事務局の方から招集の依頼がありましたら会議を開催させていただきます。どうも皆さんご苦労様でした

令和4年度第1回月形町地域拠点施設整備等審議会委員名簿

委嘱期間① 令和3年7月1日～令和5年6月30日
 委嘱期間② 令和4年6月2日～令和5年6月30日

NO	委員区分	所属等	役職	氏名	出欠
1	条例第3条第2項の1号委員 ※町の区域内の公共的団体及び関係機関の会員又は職員	月形商工会青年部	部長	香西 雅之	○
2		月形商工会女性部	部長	廣野 いづみ	○
3		月形町農業協同組合	専務理事	福井 誠	○
4		月形町農業協同組合女性部	代表監事	中村 三賀子	○
5		社会福祉法人月形町社会福祉協議会	主任	齋藤 貴子	○
6		月形町老人クラブ連合会	会長	坂田 忠雄	×
7		月形観光協会	副会長	廣野 和男	○
8		月形町PTA連合会	会長	石尾 章浩	○
9		月形町赤十字奉仕団	委員長	松山 俊子	○
10		NPO法人 コミュニティワーク研究実践センター	相談支援員	熊倉 なみ	○
11		市北行政区		高島 康典	○
12		月形刑務所	矯正処遇官	本多 大輔	○
13		社会福祉法人雪の聖母園	生活支援員	鳥潟 慎太郎	○
14	条例第3条第2項の2号委員 ※識見を有する者	月形町社会教育委員会	委員長	伊藤 格	×
15	条例第3条第2項の3号委員 ※公募による者	会社員		梅木 悠太	○
16	条例第3条第2項の3号委員 ※公募による者	農業及びフリーランス（IT、翻訳通訳、販促、デザイン、文書校閲等、各種業務受託）		加藤 由紀	○